

—社会教育施設の尊重を市政に望む—

~~多摩市長選挙・市議会議員補欠選挙 立候補予定者との対話集会~~

改め※ 仮想「立候補予定者」との 市民「対話集会」

立候補予定者以外
の方ならどなたでも
参加できます！

※お詫び この企画は当初、立候補予定者を迎えるための対話集会としてご案内しておりましたが、3月29日現在、多摩市長選挙に立候補を表明されている方が1名のため、市長選挙立候補予定者との対話集会ができなくなりました。また、多摩市議会議員補欠選挙に立候補を表明されている方は2名ですが、そのうちのお一人からご都合で参加できないのご連絡をいただきました。そこで、こちらも対話集会ができなくなりました。立候補予定者がお一人だけ参加の場合、選挙のための「事前運動」と疑われる恐れがあるからです。そこで私たちは、この大事な地方選挙の機会を活かして、新たに、類似の企画を考えました。当日は、この間の経緯、公職選挙法等のことも説明します。みなさま、是非、この新企画の討議に積極的にご参加ください。立候補予定者の方々には、この新企画に一参加者としてもご参加いただだけませんが、私たちの討議結果は、立候補予定者のみなさんに、私たちからの「お願い」としてお伝えします。



※新企画の概要 立候補予定者において作成したアンケートに、私たち自身が回答しながら討議し、立候補予定者に伝えたい意見としてまとめます。討議の成果は、立候補予定者にお伝えします。

日 時 2018年3月31日(土) 18時30分～20時30分 (18時開場)

会 場 多摩市立永山公民館ホール (ベルブホール)

参加費 300円(資料代)

プログラム

はじめに 企画内容変更についての説明—公職選挙法関連条文ほか
集会の趣旨—多摩市の社会教育施策、社会教育施設に対する私たちの思い

第1部 グループに分かれてアンケートへの回答をまとめる。

第2部 グループごとの発表

まとめ

主催 多摩市の社会教育を考える会

代表 荒井容子

会員 大橋慶一 (豊ヶ丘複合館存続の会所属)、齊藤仁 (東寺方複合館存続を考える会所属)

厚芝麗子 (聖ヶ丘図書館の存続を考える会所属)、中江智明 (唐木田図書館の存続を考える会所属)

青木洋子 (多摩市に中央図書館をつくる会所属) ほか多数

問い合わせ

荒井容子 (代表) (yarai@hosei.ac.jp)、

安室君子 (tel/fax 042-373-8258)



集会の趣旨

現在の多摩市の社会教育施策の問題－社会教育施設の不合理な大幅削減

2013（平成 25）年 11 月、多摩市では「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」を掲げ、地域図書館、公民館、児童館等の削減を打ち出しました。廃止（不合理な移転）を提案された施設がある地域では、廃止（移転）に反対する運動へと展開しました。こうしたそれぞれの地域での思いがつながり、2014（平成 26）年 12 月に、私たち「多摩市の社会教育を考える会」が生まれました。

多摩市の歴史の中で育まれてきた社会教育施設－専門性、地域配置の重視

会合を重ねるなかで、地域図書館、児童館等が、それぞれの地域でいかに大事に、日々の生活に活かされてきたかを、互いに知ることになりました。また、公民館は単なる貸し部屋ではなく、図書館は単なる本の受け渡し場でも単なる読書ロビーでもないこと、それらの社会教育施設には、市民の学びを支えるために必要な専門的な機能があり、これを担う職員がいることも確認してきました。この確認をもとに「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」（2013（平成 25）年）をみると、単なる床面積等の数合わせで削減するという安易さがありました。さいわい 2016（平成 28）年 11 月の「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」の更新では、地域図書館の削減廃止見直しを求める多くの市民の声もあり、「図書館本館の整備に合わせて地域館は廃止する」としていた案は変更となりましたが、「本館の再構築とあわせて、図書館全体の仕組みを見直していく中で、施設の大規模改修の時期までに市民と対話を行いながら、地域のニーズの把握と対応策の検討を続けます」とし、地域館の削減がなくなったわけではありません。

市民みんなの知恵を集めて、社会教育施設のあり方を考えていくべきです。

市財政の厳しさが強調されていますが、その中でどのようなやりくりをして公共施設の体系をつくるかは、それぞれの施設が設置されてきた意味を踏まえて、市民とともに検討していくべきです。図書館・公民館をはじめとした社会教育施設についても、社会教育施設の価値を深くとらえている市民、日常的にその価値を感じとっている市民の知恵を集めて、施設配置計画を考えていくべきです。また、蓄積されてきた社会教育の思想と方法を専門的に身につけ、市民とともに学びあっていく姿勢をもった職員を配置した、質の高い社会教育施設が、地域に丁寧に配置される必要があります。これは、市民が深く考え、学びあい、表現し、いきいきと生きていける地域社会をつくる合理的な施策です。また他の社会教育施設も同様ですが、特に図書館の新本館が生まれるにあたり、地域館から市の職員を引き上げ、運営を民間に委託する等のことはあってはならないことです。

「仮想「立候補予定者」との模擬「対話集会」の成果を立候補予定者のみなさんにお伝えします。

多摩市の行政と議会は、市民の要求や意見を受けとめ、市政と市民との対話を育み、刺激する場であってほしいと思います。残念ながら、今回、立候補予定者が現段階では「対話集会」を行うに相応しい人数にならず、参加を表明してくださっていた立候補予定者のみなさまに、参加自体をご遠慮いただかなければならなくなってしまいました。

しかし、この“仮想「立候補予定者」との市民「対話集会」”の成果は、立候補予定者のみなさんにお伝えします。また公開します。立候補予定のみなさん、現職の市議のみなさん、市の職員のみなさん、多くの市民のみなさんに受けとめていただき、多摩市の社会教育の豊かな発展のために役立てていただければと思っています。

多摩市の社会教育をよりよくするために、大勢の市民のみなさまといっしょに、この対話集会を行いたいと思っています。

